

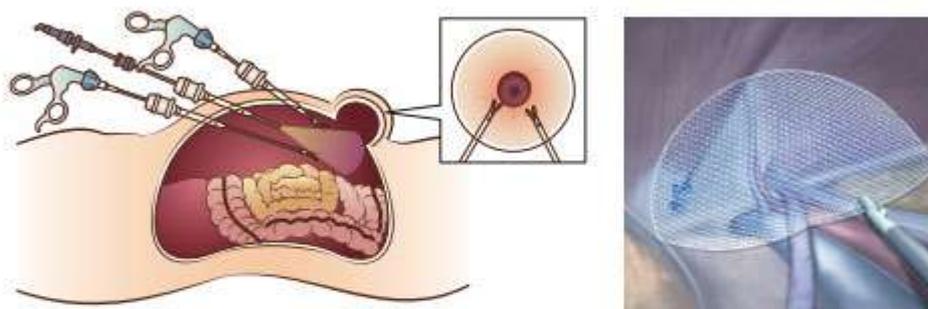
鼠径ヘルニア手術に腹腔鏡を導入しました

再発症例の手術方針決定にも非常に有用です。

このため過去に鼠径ヘルニア手術を受けられている方で術前と同じ症状がある方も受診ください。

腹腔鏡下手術 (TAPP法、TEP法)

この手術は腹腔鏡を用いて、ポリプロピレン製メッシュで内側からヘルニアの出口を覆う手術であり、近年、普及してきております。ポリプロピレン製メッシュは50年ほど前から使用されています。



従来法との違い

- 手術創が小さい (一般的に3mm~1cmの小さな穴が3ヵ所程度)
- 再発率が低い
- 術後の痛みが少ない
- 入院日数が短い
- 両側にヘルニアが存在していても、同一のキズ(穴)から同時に修復が可能

現在 手術日は土曜日で翌日退院を標準としています。

(入院期間は術後個別に判断いたします。)

術者はこれまでに 500 例以上の腹腔鏡下そけいヘルニア手術を経験しております。

腹腔鏡下そけいヘルニア根治術 (TAPP) の手術動画へのリンク

腹腔鏡下そけいヘルニア根治術 ※クリックで手術動画を開きます
<https://www.youtube.com/watch?v=4WfYBuXIn0I&t=22s>